

I 施設運営・ランドデザイン・教育事業等方針

国立磐梯青少年交流の家／小野所長引継をベースに実行→評価→次の一步に)

国立磐梯青少年交流の家ランドデザイン【長期的な計画、展望】 ～2025年

ビジョン【2025年になってほしい姿】

目標 → 重点

青少年及び青少年教育指導者に対する体系的な研修の実施

(教育テーマ) 健康的な生活習慣のきっかけづくり～(食育)(運動習慣づくり)～

(キャッチコピー) 山と湖の磐梯

赤べこのように(傾聴 と 粘り強さ そして「非思量」)

ゴール【ビジョン到達を証明する指標】

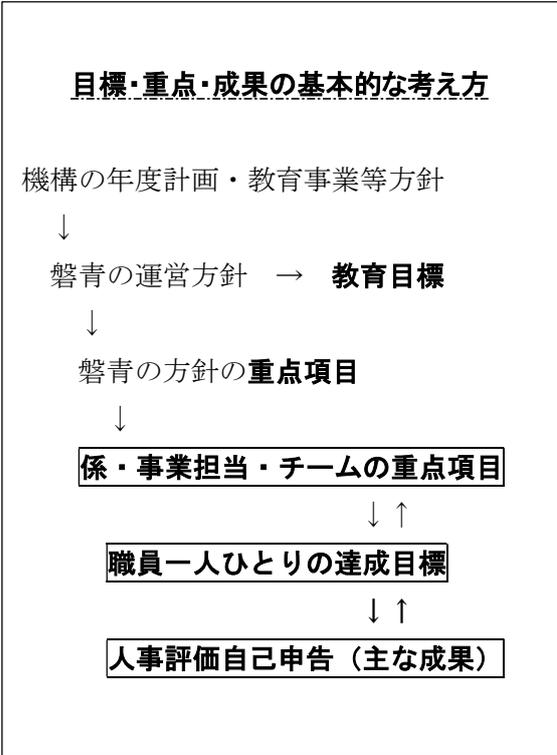
主要な成果



指標1
利用者のニーズに応じた活動プログラムの確立

指標2
法人ボランティアの組織化
法人ボランティア自主事業が
円滑に実施できる体制を整える。

指標3
福島こども未来塾実行委員会を設立
福島こども未来塾の実施体制を整える。



令和7年度国立磐梯青少年交流の家の施設運営について

令和7年度国立磐梯青少年交流の家の施設運営について

国立磐梯青少年交流の家/小野所長一佐兼
令7.4.23.

1 基本的な考え方

独立行政法人国立青少年教育振興機構法

↓ (機構の目的、中期目標管理法人、業務の範囲等など)

独立行政法人国立青少年教育振興機構に関する省令

↓ (業務方法書、中期計画、年度計画、業務実績報告、財務諸表など)

独立行政法人国立青少年教育振興機構業務方法書

↓ (業務の方法についての基本事項を定めたもの)

中期目標【第4期 令和3年度～令和7年度(2021年度～2025年度)】

↓ (独立行政法人国立青少年教育振興機構が達成すべき業務運営に関する目標 文部科学大臣指示)

中期計画

(中期目標を達成するための計画 文部科学大臣認可)

ミッション： 青少年教育の振興・健全な青少年の育成
ビジョン： 青少年一人ひとりが 幸福を追求できる 持続可能な社会を 実現する
バリュー：
Curiosity, Change, Challenge, Care, Communication, Collaboration, Creativity
好奇心 変化 挑戦 多様性・思いやり 対話・共感 協働 体験の場の創造



国立磐梯青少年交流の家グランドデザイン ～2025

↓ (中期計画を達成するための業務運営に関する計画)

令和7年度年度計画

(中期計画を達成するための業務運営に関する計画)

2 地域に根差し、地域に愛される施設で、ミッションを遂行できるように…

(1) 日常的に

地元自治体、関係機関との双方向の情報共有、そして 職員相互の合意形成

～ 赤べこのように(傾聴 と 粘り強さ)として「非思量」～

(2) 会館体として

国立磐梯青少年交流の家施設運営協議会 年11回

(中期計画)地域における体験活動の充実を図るとともに、

地域と施設が一体となった管理運営を目指すために、

(年度計画)施設の管理運営や事業の企画・実施へ

多様な主体が参画する形の管理運営を目指すため、

地域の多様な人材発掘に努めるとともに、「運営協議会」方式を引き続き実施する。

福島「体験の風をおこそう」実行委員会 年2回

職員会議 定例・随時

朝礼(毎朝) SNS(LINE TEAMS 等)

青少年教育に関するモデル的事業の推進

実践研究事業及び地域の実情を踏まえた体験活動事業(特色化事業)として実施した「アクトティブ・ジオキャンプ」の成果を青少年教育関係者等に発信する。
また、「磐梯地域探究プログラム」を実施し、全国高校生体験活動顕彰制度の地方ステージ及び全国ステージで発表できるよう参加者を指導する。

社会の要請に応える体験活動等事業の実施

社会の要請に応える体験活動の推進のために、体験活動を通して青少年の自己成長や自己実現等を図る事業として「福島こども未来塾」、親子を対象とした自然体験などに親しむ機会と場を提供する事業として「スマイルばんせい」を実施する。

課題を抱える青少年を支援する体験活動事業の実施

青少年の今日的課題に対応するため、子ども食堂と企画段階から連携し、子ども食堂を利用して青少年を対象に「生活自立支援キャンプ」を実施する。

青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業の実施

国立青少年教育振興機構のポランテニア養成カリキュラムに沿った講義や演習などを通して、青少年教育ポランテニアを養成する「ばんボラセミナー」を開催する。
また、ポランテニアが教育事業等の企画運営を通して、青少年教育ポランテニアに必要な技術等のスキルアップを図るとともに社会参画への意欲を高めることを目的に「ポランテニア自主企画」を実施する。

青少年、青少年教育指導者等を対象とする研修に対する支援

利用状況の分析や施設利用に関するアンケート調査の結果を踏まえ、活動プログラムを見直すとともに利用者サービスを向上させ、利用者の増加を図る。
安全対策マニュアルの点検、安全研修の実施、活動プログラム実施中の傷病、事故等の分析を行う。また、利用者が安全安心に利用できる施設を目指し、全職員が施設整備に日々努めるとともに安全点検日を適切に設定し、教材教具、活動用品、活動場所等の確実な点検・改善を通じて、衛生面も含めて安全安心な教育環境を確保する。

令和7年度 国立磐梯青少年交流の家教育事業等方針

1. 基本的な考え方

独立行政法人国立青少年教育振興機構法

↓ (機構の目的、中期目標管理法人、業務の範囲等など)

独立行政法人国立青少年教育振興機構に関する省令

↓ (業務方法書、中期計画、年度計画、業務実績報告、財務諸表など)

独立行政法人国立青少年教育振興機構業務方法書

↓ (業務の方法についての基本事項を定めたもの)

中期目標【第4期 令和3年度～令和7年度(2021年度～2025年度)】

↓ (独立行政法人国立青少年教育振興機構が達成すべき業務運営に関する目標 文部科学大臣指示)

中期計画

(中期目標を達成するための計画 文部科学大臣認可)

ミッション: 青少年教育の振興 ・ 健全な青少年の育成

ビジョン: 青少年一人ひとりが 幸福を追求できる 持続可能な社会を 実現する
バリュー:

Curiosity, Change, Challenge, Care, Communication, Collaboration, creativity

好奇心 変化 挑戦 多様性・思いやり 対話・共感 協働 体験の場の創造

国立磐梯青少年交流の家グランドデザイン ~2025

令和7年度年度計画

(中期計画を達成するための業務運営に関する計画)

経営計画、人事に関する基本方針、予算編成方針、教育事業等方針

2 地域に根差し、地域に愛される施設で、ミッションを遂行できるように…

(1) 日常的に

地元自治体、関係機関との双方向の情報共有、そして 職員相互の合意形成
～ 赤べこのように(傾聴 と 粘り強さ)～

(2) 会議体として

国立磐梯青少年交流の家施設運営協議会 年1回

(中期計画)地域における体験活動の充実を図るとともに、

地域と施設が一体となった管理運営を目指すために、

(年度計画)施設の管理運営や事業の企画・実施へ

多様な主体が参画する形の管理運営を目指すため、

地域の多様な人材発掘に努めるとともに、「運営協議会」方式を引き続き実施する。

福島「体験の風をおこそう」実行委員会 年2回

職員会議 定例・随時

朝礼(毎朝) SNS(LINE TEAMS 等)

令和7年度 国立磐梯青少年交流の家教育事業等方針

令和7年4月23日
国立磐梯青少年交流の家

1. 基本的な考え方

国立青少年教育振興機構の令和7年度教育事業等方針等を踏まえ、国立磐梯青少年交流の家教育事業等方針を作成し、円滑に業務を遂行する。

2. 青少年教育に関するモデル的事業の推進

実践研究事業及び地域の実情を踏まえた体験活動事業（特色化事業）として実施した「アクティブ・ジオキャンプ」の成果を青少年教育関係者等に発信する。

また、「磐梯地域探究プログラム」を実施し、全国高校生体験活動顕彰制度の地方ステージ及び全国ステージで発表できるよう参加者を指導する。

3. 社会の要請に応える体験活動等事業の実施

社会の要請に応える体験活動の推進のために、体験活動を通して青少年の自己成長や自己実現等を図る事業として「福島こども未来塾」、親子を対象とした自然体験などに親しむ機会と場を提供する事業として「スマイルばんせい」を実施する。

4. 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業の実施

青少年の今日的課題に対応するため、子ども食堂と企画段階から連携し、子ども食堂を利用している青少年を対象に「生活自立支援キャンプ」を実施する。

5. 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上事業の実施

国立青少年教育振興機構のボランティア養成カリキュラムに沿った講義や演習などを通して、青少年教育ボランティアを養成する「ばんボラセミナー」を開催する。また、ボランティアが教育事業等の企画運営を通して、青少年教育ボランティアに必要な技術等のスキルアップを図るとともに社会参画への意欲を高めることを目的に「ボランティア自主企画」を実施する。

6. 青少年、青少年教育指導者等を対象とする研修に対する支援

利用状況の分析や施設利用に関するアンケート調査の結果を踏まえ、活動プログラムを見直すとともに利用者サービスを向上させ、利用者の増加を図る。

安全対策マニュアルの点検、安全研修の実施、活動プログラム実施中の傷病、事故等の分析を行う。また、利用者が安全安心に利用できる施設を目指し、全職員が施設整備に日々努めるとともに安全点検日を適切に設定し、教材教具、活動備品、活動場所等の確実な点検・改善を通じて、衛生面も含めて安全安心な教育環境を確保する。